

卒業アルバム写真 AI選定

教職員の働き方改革を進

めようと、文部科学省は全国の小中高校の先進的な取り組みをまとめた事例集をホームページで公表した。AI（人工知能）を使った卒業アルバムの写真選びの効率化やノー部活デーの設定など工夫を凝らした事例が並んでいる。

千葉県柏市立手賀西小学校では例年、夏頃から6年生の担任と卒業アルバム担当の保護者数人が3〜4か月かけて写真を選ぶ作業

「教員作業時間半分に」

を行っていた。各児童がなるべく同じ枚数掲載されるよう数百枚の写真を印刷し、児童が登場した回数を「正」の字を書きながら数えていた。

こうした業務を削減しようと同校は昨年度、写真販売システム運営会社「エグゼック」が提供したシステムを利用。事前に児童の顔を登録し、AIが大量の写真から、指定した児童の登場する写真を即座に選び出す。マスクやメガネの有る

働き方改革 文科省が事例集

無し、成長による顔の変化にかかわらず認識できたという。
担当した東條正興教諭（38）は、「精度の高さに驚いた。作業時間は半分くらいになった」と驚く。

事例集では「業務ごとの取り組み」「業務分担の見直し」「執務時間の創出」などの項目から事例を探し出せる。事例は約150に上り、取り組みごとに削減できる時間も明示した。ある学校では、鼓笛隊から練習の負担の大きいトランペットなどの金管楽器をなくし練習時間を3分の1にした。月1回の「ノー部活デー」設定などで担当1人あたり年間86時間の削減につながったケースもあった。